

小山町の自然は心を豊かにするサプリメント

齊藤 薫(あすみが丘在住)

環境を重視して「あすみが丘」に転居して12年目。小山町には子供の後輩がいるということでたまにお邪魔するくらいでした。しかし昨年2月に産業廃棄物処分場の計画を知って以来、予定地を見に行ったりしていくうちに、しだいに小山町の豊かな自然に惹かれるようになりました。

あすみが丘から少し下っていくと、なんとなく酸素が濃く、独特の香りも感じられます。また気温も1~2度低く感じ「森林浴?」と気分も爽やかに足取りも軽くなります。道脇の土手には、季節ごとに野草が可憐な花を咲かせ出迎えてくれます。スミレ、ホタルカズラ、ホタルブクロ、ウラシマソウ、マムシグサ、タツナミソウ。見上げると山桜やコブシ、ウワミズザクラなど、団地内で見かける草花とは違った趣を感じます。

また、耳を澄ますと小鳥のさえずり、カエルやセミの声も聞こえてきます。初めは何気なく聞こえていた声にも違いがあることに気がつき、さて?はて?なんの声?と考えるようになりました。

「ホー ホケキョ」の鳴き声にこちらも「ホー ホケキョ」らしく口笛を吹いてみると、ウグイスは「?」、「縄張りに侵入者!!」と思っか、鳴き返してきます。童心に返って、ウグイスとのおしゃべりを楽しむのには良い所でしょうか?「トッキョキョカキョク」のホトトギスの真似はできませんが、トッキョキョカキョクの声には自然と笑みがこぼれます。



夏にはオニヤンマがまるで門番かのように一定の高さで、一定の範囲を飛んでいます。侵入者が来ると侵入者の目の高さに向かって飛んできます。あの独特な澄んだ目を見ると

「何をしに小山に来たの?」と聞かれているようです。また、目の前をニホントカゲというきれいな色合いのトカゲが横切り、はっとすることもあります。もちろん、蛇にも遭遇します。両脇が杉林の道ではノウサギが道先案内人のように前を走り、ワクワクしたこともありました。

名前のわからない草花、昆虫などの動植物が多いため、今年の夏以降は、写真を撮ってはその名前や生態をインターネットで調べるようにもなりました。調べ

てみると笑ってしまうような名前の由来もあります。例えば、早春に咲く「ウラシマソウ」は、花の中から長い紐状の付属物を、浦島太郎の釣り糸に見立てて名前がつけられているそうです。

時々、リュックを背負ってルーペ片手に望遠レンズ付カメラを首に下げ、自然観察をされている方ともお会いします。「サシバが飛んでいましたね」と声をかけていただき、あっ!私は花が咲いていないかな~?と下ばかり見ていた、とがっかりすることも度々で、自然観察は気が抜けません。



農作業をされている小山町の方々には気さくに挨拶をしてくださります。「今日は何か撮れたの?」「あっちにカワセミがいたよ」と、いった会話も散策の楽しみの一つです。そのため今は、動く宝石といわれているカワセミを一目見たくて通っております。

今まで子供たちとシュノーケルや磯遊びをし、スキーだ、乗馬だと、遠出をして自然と触れ合ってきましたが、このように心豊かに過ごせる環境が徒歩圏内にあることに今まで気がつかず惜しいことをした、と悔やんでおります。

昔、シロツメグサを摘み首飾りを編んで遊んだり、虫網を持ってトンボや蝶、カブトムシを追いかけて夕暮れまで遊んだりした頃を思い出します。小山町では五感をフル回転させてこのような原風景を体感できるのです。今の私にとっては、それが日々の生活の活力となるサプリメントのようです。

私はこの一年で、雄大に飛ぶオオタカ、夜ひっそりと光っているヘイケボタル、「私はここよ」と可憐に咲くホタルカズラなどたくさんの動植物と小山町で出会えました。また休耕田を復田する作業にも参加し、さまざまな感動も得ることができました。

この自然豊かな里山は、先祖から代々受け継がれてきた稲作や森林整備をしてきた小山町住民の皆様のお陰でしょう。その里山の生態系を、次代を担う子供たちに残せるよう、見守りながらのんびり暮らせたら幸せに思います。



里山たんけんレポート

第 81 回「下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い」報告

2006 年 10 月 1 日(日) くもり

今回も先月に引き続いて環境漫画家つやまあきひこ先生指導による漫画教室が行なわれました。題材を求めて小 1 時間田んぼの周辺を巡って植物や昆虫を観察しました。ミゾソバ、コナギ、イボクサなど水田雑草や湿地性の植物が盛りを迎え、斜面林ではアケビが色づき、クリのイガが口を開いていました。モズ、カケスの声も谷津に響いていました。

開花植物：ヨモギ、カントウヨメナ、ヒメジョオン、オオアレチノギク、セイタカアワダチソウ、ダンドボロギク、メナモミ、ハキダメギク、タカサブロウ、コセンダングサ、アメリカセンダングサ、オオオナモミ、タイアザミ、セイヨウタンポポ、オオジシバリ、ノゲシ、オニノゲシ、ミゾカクシ、オオバコ、キツネノマゴ、トキワハゼ、キクモ、ハッカ、ヒメジソ、キバナアキギリ、ハナイバナ、アカバナ、ヤブガラシ、シロツメクサ、ヤブマメ、ゲンノショウコ、カタバミ、オッタチカタバミ、タコノアシ、スカシタゴボウ、イヌガラシ、サラシナショウマ、ウシハコベ、ヨウシュヤマゴボウ、ヒナタイノコズチ、ヒカゲイノコズチ、ヤナギイノコズチ、ミズヒキ、ミゾソバ、アキノウナギツカミ、イヌタデ、カナムグラ、アシ、マコモ、オヒシバ、チカラシバ、キンエノコロ、アキノエノコログサ、オオエノコログサ、ムラサキエノコログサ、ヌカキビ、スズメノヒエ、シマスズメノヒエ、メヒシバ、イヌビエ、チヂミザサ、オギ、コブナグサ、ジュズダマ、コナギ、ツククサ、イボクサ、トチカガミ、オモダカ、コゴメガヤツリ、ヒメクグ、アゼガヤツリ、マツカサススキ、クサギ

野鳥：カウセミ、コゲラ、セグロセキレイ、モズ、シジュウカラ、カケス、ハシブトガラス。

昆虫：シオカラトンボ、ノシメトンボ、ナツアカネ、ムユタテアカネ、アゲハ前蛹、キチョウ、ヒメジャノメ、ヒメウラナミジャノメ、ヤマトシジミ、イチモンジセセリ、ガ sp.、クロウリハムシ、コバネイナゴ、ツチイナゴ、オンブバッタ、ウスイロササキリ、クビキリギス、エンマコオロギ、オオカマキリ、チョウセンカマキリ、コカマキリ、ツマグロオオヨコバイ、オオスズメバチ、ヨコズナサシガメ、クモヘリカメムシ

クモ：ナガコガネグモ、オオシロカネグモ、ジョロウグモ、アシナガグモ、ドヨウオニグモ、ワキグロサツマノミダマシ

両生・爬虫類・魚ほか：ニホンアカガエル、ヤマカガシ、メダカ、フナ、ドジョウ、シマドジョウ、マルタニシ、オオタニシ、カワニナ、ウスカワマイマイ、ミスジマイマイ、ザリガニ(腹に子をいっぱい抱えているのもいた)

(参加者 大人 20 名、小人 13 名 報告：網代春男)

第 65 回 下大和田 YPP「みんなでサクサク、古代米の稲刈り！」2006 年 10 月 28 日(日)晴れ

さわやかな秋晴れに恵まれ、田んぼでの最後の大事な、古代米の稲刈りをしました。緑米を中心に、黒米、赤米の 3 色のお米はしっかりと育ってくれました。例年よりもちょっとモミの付き具合が悪いようですが、しっかりと垂れた穂を見るとうれしくなります。太く育った緑米はサクサクと特によい音がして刈るのがとても気持ちよく、どんどん刈り進みます。周りからはザリガニや魚とりに興じる子どもたちの歓声にも元気付けられて、昼前には古代米田んぼを大部分刈り終えることができました。林の中でゆっくり昼食をとってから残りの緑米とマイ田



最初に刈り方を教えてもらいました



深い泥に足をとられて大変な作業

んぼの黒米、赤米を刈って予定時間が終了。あとは有志で大塚さんの田んぼを刈り、日が沈むまでにあと少しを残してほとんど刈り終えることができました。

稲を刈っていると大きなカマキリが腕に止まったり、株の間からお腹が膨れたアカガエルが飛び出したり、林からカケスの騒ぎ声が聞こえてきたり、晩秋の生きものの気配がいっぱいの谷津田でした。

(参加者 大人 17 名、幼児 2 人、小学生 1 人 報告：高山邦明)

第15回 小山町自然観察会と古代米の稲刈り

2006年10月29日(日)くもり

前日の夜からの大雨で、稲刈りできるか不安でしたが、集合時間には雨もやみ、予定通り、稲刈りを始めることができました。残念だったのは、古代米を見たい、稲刈りしてみたいと言ってくださった方が天候不良のためか、こられなかったこと。それでも、小山町の谷津田見学にきていた小学生数名はきてくれました。子どもたちにカマをもってもらい、サクサクと順調に稲刈りはすすみました。が、刈っている途中、オケラやヤゴ、カエル、ハムシなど生き物が気になりだし、手も止まったため、子どもたちは観察会へ。大人たちで、残りの稲を刈りました。さほど、手入れ、肥料をやったわけでもないのに、緑米はたわわに実をつけ、小山の湧き水の恵みを実感しました。稲を刈り終えるころには、観察を終えた子どもたちも戻り、いっしょに稲を束ね、おだにかけをしました。コシヒカリよりも収穫があったため、急遽、おだを追加。おだをしぼる縄を子どもたちがワラでなってくれて、手慣れたものでした。終わる頃には薄日も差し、無事に古代米の稲刈り、終了。緑米のおもちつきが楽しみです。

(参加者 大人5名、小学生7人、幼児1人 報告：松下恵美子)

開花植物：イヌタデ、カントウヨメナ、キツネノマゴ、キバナアキギリ、サラシナショウマ、セイタカアワダチソウ、チカラシバ、ヒメジョオン、ヒヨドリバナ、ミズヒキ、ミゾソバ、ヤクシソウ、ユウガギク。

野鳥：エナガ、カケス、キジバト、ヒヨドリ、メジロ、シジュウカラ。

昆虫：アキアカネ、ノシメトンボ、マユタテアカネ、オオアオイトトンボ、イナゴ、オンブバッタ。

クモ：アシナガグモ、ジュロウグモ、ナガコガネグモ。

その他：アマガエル、シュレーゲルアオガエル、ニホンアカガエル、ヒバカリ、サワガニ、アメリカザリガニ、ホトケドジョウ。



10月12日(木) 地元のかたから昔ながらの足踏み脱穀機と唐箕をお借りし、コシヒカリの脱穀をしました。20キロ満たない量の籾でしたが、人力だけの脱穀に一日を費やし、昔の米づくりの大変さを実感しました。



ガーコン、ガーコン、谷津に足踏み脱穀機の軽快な音が響きわたりました。

谷津田・季節のたより

下大和田

10月28日(土) アシ原から冬鳥のアオジの地鳴きが聞こえてきた(網代)。

小山町

10月7日(土) こども環境講座で子どもたちと谷津を散策。熟したアケビを味わう。秋のトンボ、オオアオイトトンボの姿を見る(高山)。

10月15日(日) サラシナショウマ、ヤクシソウ、キバナアキギリなど秋の草花が山の斜面に咲き競う(高山)。

10月18日(水) 草刈りしているとアシ原にカヤネズミの巣を発見(齊藤)。

10月28日(土) 谷津上空を2羽の猛禽がカラスに追い立てられていた(松下)。

10月29日(日) 紫色に色づいたアケビを子どもたちと味わう(高山)。



ヒバカを見つけて子どもたちは大喜び

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPの活動は大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。
連絡先(いずれも): ちば環境情報センター(TEL&FAX:043-223-7807 E-mail:hello@ceic.info/)
ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。
・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。

* 田んぼや畑は地元の方の大切な私有地です。観察会以外にむやみに立ち入らないようにお願いします。また、貴重な動植物の捕獲、採取は控えてくださいますよう、ご協力をお願いします。動植物の移入も厳禁です。

第66回 下大和田 YPP「収穫祭」

古代米の稲刈りが終わり、いよいよ毎年恒例のお楽しみ、収穫祭です。みんなで育てたコシヒカリの試食はもちろん、バーベキューやあったか豚汁を味わいながら、今年一年をふりかえって楽しくおしゃべりしましょう。いろいろなゲームもして、初冬の日を満喫します。

日時: 2006年11月12日(日)10:00~14:00 *小雨決行
場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)
集合: 中野操車場バス停に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円
持ち物: 弁当、飲み物、敷物、お椀、皿、はしなど
参加費: 500円(今回は食材費を含む特別料金になります)
主催: ちば環境情報センター(ホームページ <http://www.ceic.info/>)
共催: ちば・谷津田フォーラム(ホームページ <http://yatsuda.2.pro.tok2.com/>)

第16回 小山町自然観察会

晩秋を迎えた谷津田の様子を観察しましょう。天候にもよりますが、脱穀を終えたコシヒカリ、古代米の初すりもしたいと思います。

日時: 2006年11月19日(日)10:00~12:30 *小雨決行
場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(当日、集会所前に案内を出します)
持ち物: 長靴、着替え、飲み物、軍手、いらぬ服や帽子など
参加費: 100円(保険・資料代など)

第83回 下大和田12月の谷津田観察会とごみ拾い

谷津田は紅葉のさなか、初冬の谷津田を散策します。カヤネズミの巣のカウントもしましょう。

日時: 2006年12月3日(日)10:00~14:00 *小雨決行
場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)
集合: 中野操車場バス停に10:00(同上)
持ち物: 筆記用具、弁当、水筒、長靴、帽子、敷物、軍手、ゴミ袋など
参加費: 300円(保険・資料代など)
主催: ちば・谷津田フォーラム
共催: ちば環境情報センター

編集後記

*せわしく鳴いていたモズも縄張りが決まったのか少し落ち着いた様子です。稲刈りの時には株の間でお腹が大きなアカガエルの姿を何度も見かけました。秋から冬に季節は確実に進んでいます。皆さんのお陰で今年も田んぼでたくさんの収穫があり、そして何よりもたくさんの命を育むことができました。静かになった田んぼは冬鳥たちの餌場として再び活躍します(高山)。

*コシヒカリの脱穀、古代米の稲刈りを無事に終わることができました。20平方メートルに満たない田んぼですが、慣れないこともあってか、何をやるのも一日仕事。機械に頼らぬお米づくりを通し、普段当たり前のように口にするお米の貴重さを感じます。できれば、これらすべての行程を子どもたちと体験できたらと思いますが、天候や皆のスケジュールがあわず、難しいのが現実です。来年はぜひ、実行したいです(松下)。